

## 鈍痛

ただ鈍い頭痛がする  
真っ白い夏雲が泳いでゆく  
何ものも望まぬ平坦な毎日  
誰かに理解してもらおうとは思わない

イヤホンから流れてくる音楽よりも  
やかましいコマーシャルが好ましい  
この世界に意味など必要なはずがない  
まして私にとってなど

幽霊のように渡ってゆく夏雲  
まどろみの中から逃げ出したような  
虚偽と分かっているにもなお  
歩き続けることを強制する神のような

底を突いた貯金や  
老いさらばえた国民や  
競争のための競争や  
そんなものが理由なのではない

錬金術を夢見る者は居ない  
魂は次第に論理に置き換えられてゆく  
計算された偶然が発生する  
茶番のようなつまらなさ

気休めの祈りなど誰も信じていない  
英雄が現れることもない  
追認するしかないだけの時間  
ただ鈍い頭痛がする

*(2011.8.14)*